研究会報告(要約)

田上絵図事始め
—仰木絵図の取り組み　実例紹介—

蔭山　歩

今年度（平成17年度）から里山学・地域共生学オープンリサーチセンターのリサーチアシスタントとして参加することになり、研究会では自己紹介も兼ねて、私がフィールドにし深く関わる大津市仰木での地元成安造形大学と共同で取り組んだ「心のふるさと仰木の里山マップ作成事業」について発表させていただいた。

大津市仰木は比叡山麓の丘陵地にあり、平成20年に1150年祭を迎える氏神が祀られている延喜式内社の小椋神社が鎮座する歴史のある地域で、写真家の今森光彦氏がこの地域の棚田を撮影した写真集が反響を呼び、観光客やアマチュアカメラマンなどが年々増えるほど注目されるが、高齢化や鳥獣害のため棚田の耕作放棄が進む現状の中、活性化の在り方が模索されている。仰木集落に隣接するように昭和50年頃から「仰木の里」というニュータウンが開発され、その中に母校の成安造形大学がある。大学では2000年より「美という視点を持ちながら、古くからの知恵、古くからの美意識を学ぶ」対象として地元仰木＝里山を検証していく連続セミナーやシンポジウムなどを開催してきた。また、その取り組みと平行して今森光彦氏の発案により大学教員・職員・学生の有志による仰木集落に点在するお地蔵さまを通して里山の精神文化を明らかにしていく「地蔵プロジェクト」なども始まり、大学と地元仰木との交流が広がっていった。

2002年、仰木学区地域活性化委員会から成安造形大学に「地域の魅力づくり事業として全国に発信できる仰木地図の作成」依頼がされた。当時から私は「地蔵プロジェクト」や作品制作を通して、仰木の地域文化やまちづくりに携わっていたこともあり、仰木と大学のパイプ役として仰木調査のコーディネート、絵図作画・制作、国土交通省への報告資料作成・報告を務めることとなった。まず、住環境デザインクラス磯野ゼミ20名とチームを組み、仰木の各字（上仰木、辻ヶ下、平尾、下仰木）と食文化、里山・棚

田、書籍・文献の7グループに分かれ、聞き取りとフィールドワークによる調査を実施した。

地元住民の前で、調査の発表、地図作成への意見交換が行われた。地元住民の「ここで話し合ったこと聞いたことを地元の人たちと共有したい。もっと地元の人たちに自分達のムラについて考えるが必要だ」「仰木にこんなに魅力があるとは気が付かなかった」という意見を受けて、今回の地図を外部の人はもちろん仰木に住む人が改めて仰木を再発見・再確認できるような「鳥瞰絵図」にすることが決まり絵図の作成を進めた。「心のふるさと仰木の里山マップ―仰木絵図―」と名づけられ、1万部作られた絵図は仰木全戸に配布され、マスコミにも取り上げられ反響を呼んだ。地元が制作した報告書では「成安造形大学の協力により、外から見た里山文化の魅力や感想等を話し合う中で、仰木の魅力を再発見する機会となり、今後の活性化事業の具体化や地域行事においても、地域と大学の協力体制が整うとともに、学生との交流により、田舎特有のよそ者疎外の風習をなくしていくきっかけとなり、来訪者等への開かれた受け入れ体制の構築が期待される。」と評価された。

この取り組みを通して、またその後絵図を介して、多くの方と仰木について思いを巡らせ過去や未来に心を馳せる時間を持った。フィールドワークを通して、地元の方々の言葉や地域文化を顕在化させた絵図の効力を改めて認識し、またそういう時間に話される新しい未来への提案や地元への想いそれこそが「地域の活性化」とも言えるのではないかと私は思う。今後、龍谷の森のある瀬田・田上地域においても、地元の方や学生たちと共に、また幅広い研究者の方々の成果をもとにした、様々な視点から地域を見渡せるような絵図の作成を試みたいと考えている。

付記：

仰木絵図の取り組みは「地域資源を活用した『心のふるさと仰木の里山マップ』作成&発信」として国土交通省による平成14年度「地域資源活用構想策定等支援調査　地域の魅力づくり支援事業」の助成を受けています。

引用：

国土交通省（2002）　地域資源活用構想策定当支援調査地域の魅力づくり事業報告書

参考文献：

成安造形大学（2000）　アートトーク　里山特集号、芸術文化交流センター
成安造形大学（2001）　アートトーク　、芸術文化交流センター